

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02222

研究課題名（和文）里親における乳幼児養育の現状と養育支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Current Status of Infants and Toddlers Foster Care and Development of Foster Care Support Program

研究代表者

上鹿渡 和宏（Kamikado, Kazuhiro）

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：10623689

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：早期より養育者からの分離や喪失、虐待などを経験している社会的養護のもとにいる乳幼児に対して、英国で開発された遊びを使った心理的支援であるWatch me Play!プログラムを日本に導入するため研究調査と、実践を行った。日本語版マニュアル等の実践を進めるためのツール作成と研修プログラムの開発を進め、さらに開発者を招聘しスーパーバイズや講演会を実施した。その結果、Watch me Play!プログラムん実施により、子どもの支援だけでなく、養育者や支援者のスキルの向上やチーム養育の支援につながる事が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によりWatch Me Play!プログラムの日本導入が可能になり、社会的養護のもとにいる乳幼児へのアタッチメントの促進や、より早期からの幅広い職種による心理的支援を提供できることが明らかになった。また支援者向けのトレーニングでは、子どもの発達や心理的なサインへの気づき、養育者支援の重要性を含めたチーム養育への意識の高まりなどのスキル向上も促進されたことで、より質の高いケアを早期から提供できる可能性が高まった。

研究成果の概要（英文）：Watch Me Play!(WMP), play-based psychological support developed in the UK for infants and toddlers in social care who have experienced early separation from their caregivers, loss and abuse, was researched and practised in Japan. As a result of creating a Japanese version of the manual and other tools for practice, developing a training and inviting the Dr Wakelyn to Japan, it was shown that WMP not only supports children but also improves the skills of caregivers and supporters.

研究分野：子ども家庭福祉

キーワード：社会的養護 里親養育 里親養育支援 乳幼児里親 Watch Me Play!

1. 研究開始当初の背景

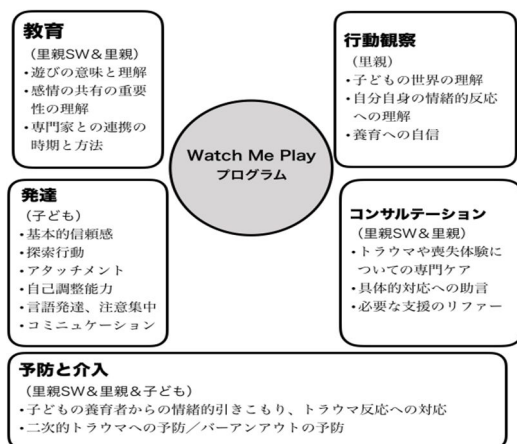
『子どもの代替養育に関する国連指針(2009)』は「専門家の有力な意見によれば、幼い児童、特に3歳未満の児童の代替的養護は家庭を基本とした環境で提供されるべき」とし、「その子に安定した家庭を保障すること、養育者との安全で継続的なアタッチメント(愛着)という基本的な必要を満たすこと」が重要と指摘している。根拠とされている「専門家の有力な意見」とは欧米諸国において継続されてきた施設や里親家庭、養子縁組家庭で養育された子どもへの様々な影響についての実証研究成果をさす。ルーマニア孤児院を対象に実施された英国(ERA)や米国(BEIP)の研究により、生後半年～2年までの間、できる限り早期に良好な家庭養育へ移行し「安定したアタッチメント」を可能にする個別の関係を得ることが重要であり、家庭養育への移行が全てを解決するわけではなく、個別の養育の質こそが子どもにとっては最重要といった指摘がなされている。これは、2020年度以降特に乳幼児里親委託を促進することが各都道府県において喫緊の課題とされるわが国にとっても重要な示唆である。また、すでに里親等家庭養育を中心とした社会的養育システムが整えられた欧米諸国においては、益々複雑で多様になる子どものニーズに合わせた支援体制やプログラム等についての実証的研究が実施され、それにより実践を改善し、さらには施策にまで影響を及ぼすことで子どもの最善の利益を保障する社会的養護の確立が図られている。一方わが国ではこれらと同水準の研究は非常に限られており、研究と実践、施策がうまくかみ合わない状況が続いている。国連からの勧告にもあった乳幼児の代替養育について質の高い里親養育の実践展開を支える学際的・実証的な学術研究が特に必要とされている。

養育者の分離や喪失を体験し、社会的養護のもとにいる乳幼児は最も脆弱な状態におかれやすいが、日本では3歳以下の子どもの家庭養育の推進が強調されているものの、まだ十分に乳幼児の里親養育についてのサポートが充実していると言えない状況にある。しかし、社会的養護のもとにいる乳幼児は、逆境的体験(ACE)などの実証研究から、心身ともに発達に影響を受けるリスクにさらされやすいことが知られている。乳幼児期は、学童期以降の子どもの養育とは異なる養育への配慮のもと、養育者を含めたきめ細やかな育児支援が必要とされる。我が国ではそうした情報を包括的に得られる研修やプログラムはほとんどなく、参考にできる情報も乏しい。

そこで、本研究では、英国で社会的養護のもとにいる乳幼児のための遊びを使った心理的支援として開発され、心理学の専門家だけでなくソーシャルワーカーや保育士など幅広い専門家がシンプルな手続きで、かつ無料で実施が可能であるため Watch Me Play!プログラムの日本への導入について検討する。

Watch Me Play! プログラムの概要

英国のThe Tavistock & Portman NHSで開発されたプログラムで、主にソーシャルワーカーなどによる里親支援のプログラムである。プログラムのマニュアルは11ヶ国語に翻訳され、社会的養護の枠組みを超えて一般の子育て支援や学校でも利用されており、対象年齢は5歳以下から8歳まで広がっている。Watch Me Play! プログラムは、養育者が子どもと週に2回以上、1回20分の子ども主導の遊びを行う。同



時に支援者が定期的に訪問し、遊びに参加して振り返りを行う。養育者は子どもの自発的な行動を尊重し、教えたり質問したりせず、子ども主導の遊びを見守る。

子どもは安心感を得て探索行動が活発化し、養育者との応答性が高まることが知られている。また子どもが安心して遊びに没頭できることで、集中力や、コミュニケーション、言語などさまざまな発達を促進することが知られている。養育者は遊びを通して子どもをより詳細に理解することができ、また不

安や心配を支援者と共有し話し合うことで、二次的トラウマの予防や早期介入が可能になるとされている。

2. 研究の目的

本研究は、社会的養護のもとにいる乳幼児の支援のために開発された Watch me play ! プログラム導入のため、日本の状況に合わせたプログラムの開発を行うことで、脆弱性の高い乳幼児に対して、早期の支援や効果的な予防介入方法を検討することが目的である。

3. 研究の方法

研究1 Watch Me Play!の日本導入に関する研究調査

The Tavistock & Portman の Watch Me Play(WMP) チームへのインタビュー調査等から、英国での実践状況、対象者、WMP の具体的な実施方法を検討する。

研究2 Watch Me Play!の日本での実践

研究1で得られた知見を元に、日本版の研修プログラムを作成し、社会的養護のもとで暮らす子どもを育てる養育者と、その支援を行う専門家を対象に協力者を募り、実際に Watch Me Play!プログラムを実施した。支援者と養育者には半構造化面接、質問紙調査、聞き取りによる子どもの発達に関する調査など、事前事後調査を行う。養育者には 20 分のプログラムを週 3 回の実施と家庭での遊びの記録を取ってもらう。支援者は、2週間に一度の家庭訪問を6ヶ月継続し、その際の遊びの記録と、月2回、Watch Me Play!ファシリテーターのスーパービジョンへ参加をお願いした。(いずれも研修、GSV は The Tavistock & Portman で WMP の研修を修了している日本人心理士にオンラインでの実施を依頼した。)

4. 研究成果

研究1 Watch Me Play!の日本導入に関する研究調査

現在 WMP の適応範囲は、社会的養護だけでなく、学校、クリニック、また一般の親向けにも改訂されて、新型コロナウイルスの流行以降はリモートも含めた柔軟な実践がなされていることが明らかになった。また適応年齢も5歳から8歳に引き上げられていた。プログラム内容の文化的背景についても検討を行なったところ、アタッチメント理論や発達心理学、精神分析的視点などについては普遍性が高く、大幅な変更などは特に必要ないことがわかった。

開発者の Dr Jenifer Wakelyn から許可を経て、マニュアル1(実施方法)とマニュアル2(理論)の日本語版翻訳を作成した。社会的養護の現場の保育士、ソーシャルワーカー、心理士にマニュアル1について確認してもらい、日本の文化にあわせた表現や遊びの内容を追加修正し最終的な日本語版マニュアル2冊とリーフレット版を完成させた。加えてホームページの翻訳も行い、現在、日本語版マニュアルは、日本語版 HP および The Tavistock & Portman NHS のページから無料でダウンロードが可能となっている。

研究2 Watch Me Play!の日本での実践

研究1の結果から、プログラムの実践自体には文化的背景への問題等はないことが明確であったが、その一方で支援者については英国やその他のヨーロッパ圏では心理士だけでなく、ソーシャルワーカーも含め乳幼児観察のトレーニングを終えているものが多いことが判明した。そのため、日本への Watch Me Play!導入に際しても同様のトレーニングを実施することが有効と考えられた。

そこで日本版のプログラム導入研修として家庭訪問を行う支援者に対し 事前研修、簡易版乳幼児観察トレーニング(1回1時間を3回、グループでのスーパービジョン)、 Watch Me Play!の実践、支援者のためのグループでのスーパービジョン、といった構成で研修プログラムを構築した。フォスタリング機関や乳児院に協力を求め、プログラム参加者は最終的に支援者10名(社会福祉士、心理士など)、養育者8名(里親、養親、乳児院保育士)となった。

研究開始後、乳児院では職員の勤務体制などの問題から一対一の時間を週3回取ることは困難であることが判明し、頻度を週1回としたが研究終了後の WMP 継続は困難であった。これは対象乳児院の問題ではなく(むしろ基準よりも人員体制も協力体制も充実していた)、日本の施設養育の構造上の問題であったため、今後の社会的養護のもとにいる乳幼児の支援に大きな課題があることが明らかになった。

子どもの発達検査や、養育態度についての質問紙調査では WMP 導入前後の6ヶ月では大きな変化はみられなかった。しかし、子どもが WMP の時間を非常に楽しみにしていたことが全てのケースにおいて報告され、子どもが安心して探索行動を行うという側面を促進していたと推測された。また、養育者を対象とした半構造化面接の結果からは、子どものことが以前よりわかるようになった、子どもとの個別の時間を作ることの重要性に気づいたといった養育者側の内的な変化について語られており、子どもの行動面としては子どもの癩癩などが減ったといった報告もあった。いずれの養育者も支援者の定期的な訪

問が支えとなり、子どもとの時間を確保できたことを報告しており、実際の子どもの状態を共有して理解してくれる支援者の存在が大きなサポートになっていたことが語られた。一方で、支援者も直接遊びを観察し関与する時間を持つことで、以前よりもより詳細な支援へのアプローチにつながることを報告していた。さらにグループでのスーパービジョンが支えになったといった発言もあり、支援者もサポートを受けることの重要性が示唆された。

国際的な Watch Me Play!の研究動向と意見交換

WMP プログラムの導入を進めているイタリアやオランダの実践者や、ロンドン大学、The Tavistock & Portman NHS の研究チームとプログラムの適応範囲拡大の可能性や効果測定などについて意見交換をおこなった。特に、他国の実践者との情報共有は、聴覚障害や発達障害を持つ子どもへの導入、プログラムの効果測定についてなど日本でのプログラム実施の課題にも役立つものであり、今後も継続的な交流が行われる予定である。

日本版 Watch Me Play!プログラムの周知と意見交換

Watch Me Play!の開発者である Jenifer Wakelyn 博士を日本に招聘し、日本版 Watch Me Play!プログラム実施のモデルの検討を行った。それに伴い東京と、札幌にてそれぞれの Watch Me Play!の実践者へのスーパービジョンに加え、専門家に向けた講演会を行った。

Watch Me Play プログラムの日本での導入と実践では、プログラムの適応範囲の拡大、文化的背景に合わせた調整、データ収集と国際的な意見交換など、多くの成果が得られた。今後も継続的なデータ収集と分析を通じて、日本での効果的な導入方法を確立し、社会的養護のもとにいる乳幼児の支援の充実を図ることが必要と考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 御園生直美 上鹿渡和宏 長田淳子 引土達雄 岩崎美奈子
2. 発表標題 社会的養護における乳幼児の支援 Watch me Play プロジェクトの日本導入への検討
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第27回学術集会かながわ大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Watch Me Play! Materials in translation https://tavistockandportman.nhs.uk/care-and-treatment/our-clinical-services/watch-me-play/ WMP日本語版ホームページ https://watchmeplay1.w.waseda.jp/?page_id=100
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	御園生 直美 (Misonoo Naomi)		所属は 2020~ The Tavistock and Portman NHS 2023.9~ 白百合女子大学 人間総合学部 発達心理学科

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

英国	The Tavistock & Portman NHS			
----	-----------------------------	--	--	--